

福祉ネットワーク会議等第2層圏域における、多様な団体・機関の参画による協議の場 開催状況

地区	会議名	内容	課題
明峰小	福祉ネットワーク会議	・前回の会議を受けての取り組みの報告及び出席団体の活動報告。 ・各団体が考える地域課題についての意見を集約し、次回の開催につなげる。 ・第2層Coより「地域共生社会」の目指すところや現在の福祉課題と明峰地区の取り組みについて紹介。	既存の活動を根付かせるため、地域の各団体活動の相互理解と連携した取り組みが必要となる。今後のネットワーク会議においても、地域組織全体として地域課題に取り組む意識を醸成することが必要。
	福祉ネットワーク会議	・「地域福祉活動に期待するもの」をテーマに地域福祉課林参事官が講話。 ・避難行動要支援者の取り組みを含む見守り活動について各自治会より報告。 ・前回のネットワーク会議のまとめを共有した上で、今後の取り組みに係るアンケートを実施。	自治会ごとに福祉委員会主導で行っている自治会とそうでない自治会がある。取り組みは多様性があるが、それぞれが実効性ある活動となっているのかを丁寧にに関わりながら確認していく。
多田	福祉ネットワーク会議	・子ども食堂の実施に向けた協議。第2層Coより、以前に子ども食堂について議論した内容の振り返り及び実施の目的などについて講話。 ・具体的な議論の中でスクールソーシャルワーカーからも子どもの居場所の必要性について地区の現況に基づき説明。	次年度から実施していくことについては合意形成ができた。今後は運営方法や財源など、細部の詰めを行っていく必要がある。
多田東	福祉ネットワーク会議	・長く開催が出来なかったことから、現状の社会状況や福祉施策の動向について、第2層Coより講話。 ・各団体より現状の活動状況などを報告。	理事よりネットワーク会議はしないのかという意見が理事会であり、その意見を受けて急遽開催を決められたため、論点や出席メンバーなどを十分に検討する時間がないうまま、開催することが目的化してしまった。
清和台	福祉ネットワーク会議	・「福祉ネットワーク会議とは(第2層圏域における協議の場の意義)」をテーマに第2層Coより講話(地域福祉課が代講)。 ・福祉委員会より福祉ネットワーク会議のこれまでの取り組みを説明。 ・コロナ禍における課題と対応等(各団体より)を共有。 ・今後の協議の場に関するアンケートを実施。	新型コロナの影響で2年近く間隔が空いた開催となり、左記のような内容となった。今日出された課題やアンケート結果を、以降の議論のベースにしていく。 ※SSWが初めて参加

(総評)

- ・引き続き、新型コロナの影響で、サロンやカフェなどの「集う」活動、協議の場の開催は、多くの地区で中止された。活動が継続できた地区とそうでない地区、早期に再開できた地区とそうでない地区の違いは、地域福祉活動の意義の捉え方などソフト面が大きいですが、活動拠点の広さや換気機能などハード面も大きく影響した。現状の拠点は狭く、古いものが多く、網戸が設置できない構造で換気が難しい会場もある。感染対策からも拠点の整備は課題だと言える。
- ・多様な団体・機関の参画による協議の場はコロナ禍で中止した地区が多かったが、各地区福祉委員会の会議は継続して開かれた。コロナ禍でもできる活動の模索や、訪問型助けあい活動を担う組織の再構築、自治会域などより小地域での見守り支えあい活動などに議論が進んだ地区もあった。
- ・若い世代における地域福祉活動の担い手の核であったPTA加入者と子ども会の減少が続き、福祉ネットワーク会議や、その他活動への参加を断られる地区が出てきた。人材確保のみならず、子どもや若い世代の意見の聴取が難しくなっている。